

認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

(別紙 3)

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の運営理念の他、“あおぞら”にちなんだ介護理念も作り、日々介護に臨んでいる。理念を理解し、従業者に日常的に話し、共に理念達成に対する目標に臨んでいる		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日常的に理念について話し、いかに利用者が生き生きと家庭的な雰囲気の中で、地域に密着し生活できるか考えつつ日々の介護に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には勿論、外出等にて近隣・地域の方々と触れ合う機会を作れるようし、理解していただけるよう取り組んでいる。又地域に向けたホーム便りを作成し、近隣の店舗に掲示していただく等にて啓発努力をおこ		
2. 地域との支え合い				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶・声掛け・庭で一緒にくつろいだり、一緒に散歩に行くなどしている。季節の野菜の差し入れ等頂く機会が多く、一般家庭のような隣近所付き合いをさせていただいている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・老人会加入、地域の行事参加等にて地域との交流に努めている。また、ホーム行事に福祉ネットワークその他の方に協力して頂き、入居者の方々と触れ合っている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	隣近所程度ではあるが、生活の困りごとの相談を受け、居宅支援事業者紹介・仲介等行っている。また介護についての疑問や困りごとについて相談にも協力させて頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について共に考え、結果を速やかに改善につなげるよう努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	入居者本人・ご家族に同意を得、個人情報に踏み込み過ぎぬよう配慮しつつ報告や話し合いを行い、サービス向上に取り組んでいる		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場担当者や広域連合遠賀支部・遠賀町社会福祉協議会に頻りに訪れ、共にサービス向上を図れるよう、取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域の勉強会参加や社会福祉協議会へ出向き勉強させていただき、ホームでも勉強会を開き全ての職員に知識・必要性を考えてもらっている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者を敬う気持ちを育み、虐待のないよう注意を払い、管理者は職員と良く関わり虐待防止に努めている		
	4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得が得られるよう、説明やこちらからの質問の有無の声掛けを十分に行っている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや、利用者と密に関わり信頼関係を築き、不満等表出しやすい環境作り行うと共に、利用者と共に作成した意見箱を設置するなどし何らかの形で表出できるようにしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居費用支払日や面会時報告(金銭管理については領収書を合わせ小遣い帳へサインをいただいている)の他、定期受診後電話連絡にて受診結果や現状報告・介護に対する要望の変更の有無・行事参加依頼等行って		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時、必ず管理者・介護責任者が関わり、何らかの意見を受けられるようしており、意見箱の活用についても日々依頼している。また、玄関に苦情に関するポスターの掲示の他、年一回の外部評価アンケート		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者は日常的に職員と関わり、定期的に親睦会を行うことで職員の率直な意見を引き出せるよう努力し反映に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	十分に利用者・ご家族へ対応できるように、定められた介護スタッフの他、1名(運営者・管理者)が待機・介護補助を行っている。また勤務を組む際、職員の休み希望等の配慮を行い工夫している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族3名が協力し運営(介護)しており、職員間の関係調節にも配慮している。開設して4年半であるが4年以上の職員4名・3年半以上の職員1名と顔ぶれはほとんど変化なく、家庭的に過ごせるよう努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢等で判断せず、その人自身をみるようにしている。また職場での発言や提案を受け止め実現に向けたりしている。職員が自分の時間を持ち家族と共に過ごせるよう勤務の工夫休みの配慮も行っている。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常的に一人人として尊重する姿勢が大切と考え、勉強会にも取り入れている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習会の参加促進、参加後ホーム勉強会を利用し、参加報告や意見交換等にて全ての職員への知識の共有等に努めている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉事業者連絡会参加での交流や、近隣・遠方のグループホームとの交流を大切に、相互訪問や共同活動を行っている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に関わり、2~3ヶ月毎の親睦会を開くなどし、スタッフのストレス状態の把握・軽減等行っている		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常的にスタッフと関わり各々の性格把握、姿勢等観察しつつ、向上心を持ち、明るく元気に働けるよう努めている		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症があるからと御家族の意見のみ受けるのではなく、利用者本人とよく関わり、本人の言葉を尊重し、受け止められるよう努力している		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の時点や契約時のみではなく、入居後も御家族・本人・友人等ともよく関わり信頼関係を築き表出しやすい環境作りに努めている		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、ご家族のお話しをよく聴き、その後ご本人も交え何が必要かよく見極めるようしている。また、すぐに入居を考えるのではなく、他サービスの利用にて対応できると考えられた際は、他サービス推進もおこなっ		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に当ホームの入居者・職員とレクリエーション(散歩含む)等で触れ合っていたが、混乱や孤独感の極力ないよう努力している		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜び悲しみを共有し、一緒に暮らしている感覚で、教わり支えあう関係を築けるようしている		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とも密に関わり合うことで、信頼関係を築き共に喜怒哀楽を分かち合い、入居者を共に支えていく関係作りに努めている		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係の修復・回復などの援助にも力を入れている		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来訪しやすい雰囲気作りに努め、来訪が途切れれば理由の把握ができるようし、再来訪に繋げられるようするなど努力している		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は入居者とよく関わり関係把握等努めつつも、むやみやたらと入居者同士の関係に口出しせず、よく観察し、本当に必要な場合のみ速やかに対応できるようにしている、		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、御家族との連絡を行い、現在の状況について伺ったり、入院先へのお見舞いの継続など行っている		
	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
	1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で個人の思い等引き出しており、計画時・評価時等、再度本人へ自尊心を考慮しつつ意向の確認をしている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・ご家族より生活歴等お伺いし、習慣や役割の継続を図れるようしている。また、ならわしを大切に、どうしたら良いか教えていただく姿勢で、家庭的に行っている。初詣等へも積極的に出かけている		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の状態を参考にしつつ、入居後利用者をよく観察(排泄状態も含む)し、個人に応じ散歩コースを変えるなど個別対応を行っている。調理・庭作りなど生活リズムや身体機能の維持・向上も図っている		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それまでの生活を踏まえたうえ、計画作成時期に話し合うだけでなく、入居者・ご家族の求めていることを日常のコミュニケーションからも把握できるよう努力し、アセスメント・課題設定をおこなっている。計画には全ての職員が関るよう、計画準備が整えば、カン		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとの評価を行い、継続の必要性や計画の妥当性等検討し、その時に応じた状況を把握し、その方(関係者含む)の希望を聞き取りつつ変化に応じた際の見直し・計画作成を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌の記録・アセスメントを行うなどし、工夫している。またミーティング等で記入の方法についての話し合い等を行っている		
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間を通じて支援させていただき、本人・ご家族の状況の変化等に柔軟に対応していっている(ご家族の面会時間も同様)。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティアの方へは協力していただき、消防・教育機関等にも協力体制を常に依頼しホームでの活動にも共に支援していただいている		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性を考え、利用者(入居者は無論、入居希望者・退所者)の意向も大切に、関連あるケアマネや地域サービス事業者との連携を図り活用支援に繋げている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	意向・必要性に応じ社会福祉協議会(遠賀町・福岡県)等と協働している		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携医以外でも、かかりつけ医があれば、継続受診を可能な限り支援させていただき、運営者が受診同行にてかかりつけの医療機関同行を行うなどしつつ、医療機関との連携が図れるよう努力し、適切な医療を受けられるよう支援している。本人・ご家族の希		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診以外でも、気軽に相談に応じて頂ける様な関係が築けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	運営者が看護職員であり、日常的に利用者に関わりあいつつ、提携の医療機関とも連携を図りつつ健康管理等行っている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院にむけ、Dr・Ns・Sw等と連携をもち、ご家族を交えての情報交換や話し合い等も行っている。入院による孤独感を和らげられるよう、面会に訪れたりもしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、およその希望を聴取し、実際に重度化や何らかの病気に終末期のケアが必要になることが判明したとき、再度本人やご家族、医療機関・ホーム全職員と協議しつつ、方針等共有し、状態の変化等でも繰り返し話し合い等行っている		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	少しでも笑顔が見られるよう本人の希望を極力叶えられるよう、ご家族・医療機関との連携を密にし、ケアに臨んでいる		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	少しでもダメージが少ないよう、ご家族・ホーム職員・ホーム入居前・後の医療福祉関係者と情報交換を行い、どうすれば良いか・何が必要か等話し合い、実行に努めている		
	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
	1. その人らしい暮らしの支援			
	(1) 一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方に応じた声掛けを行い、耳が遠いからとむやみに大声で声掛けしたりせず、個人の誇り・プライバシーを十分配慮しつつ支援することを心がけている。また、個人情報の取り扱いにも配慮している		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ホームや職員の都合を押し付けぬよう、本人の思いや希望を引き出すよう、選んでもらう場面作りや職員の待つ姿勢・提案の工夫を行い、自分で決め納得しつつ暮らせるよう支援させていただき努力をしている		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、強制したりせず、入居者のペースやその日の希望等配慮しつつ笑顔で過ごせるよう職員はよく観察し、何か表出したい事があるのではないかと把握できるよう努力している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容室等あれば、継続し利用できるよう店舗との相談を行ったり、近隣の美容室・理容室では入居者の状態に合わせ臨機応変に対応をしていただいている。また、自宅での毛染めの習慣のある入居者に対して		
56	食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り等共に行い、メニューの提案等していただける環境作り(雰囲気作り)に努め、個人の好みや力を情報だけでなく、実際に確かめつつ今この場で本当に楽しむことができる食事の提供につなげられるよう努		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	民家改造型にて狭く限られた空間のため、嫌煙される方への配慮・火災予防をかね、煙草を吸われる方の入居はお断りしているが、それ以外一人一人の嗜好品を把握し、状況にあわせ日常的に楽しめるよう支援を		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自立した排泄を目指し、排泄の失敗を減らせるよう、個人に合わせた誘導など行っており、おむつが外せるなどと成果があがっている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	およその時間は決まっているが、希望があればいつでも入浴できるようにしている。現在ほとんど毎日、入浴を楽しんでいただいている。また、入浴剤を使用する		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、適度の運動・休息支援を行い、夜間良眠が得られるよう支援している。現在、眠剤不使用にて良眠が得られているが、まれに寝付けないことがあれば、コミュニケーションを行い温かい飲み物の提供を行う等		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前にご家族・本人より楽しみごと等聞き出し、入居後もコミュニケーションのなか、個人に合わせた役割や楽しみごとなど見つけ出しスタッフは「ありがとう」「助かりました」の声掛けを多くしつつ、張り合いや喜びを感じていただけるよう支援している		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフが全て管理してしまうのではなく、その方に応じ自身にて財布を管理していただいたり、そうでない方も買い物場面では、スタッフと共にお金を実際に持って頂き支払いをしていただくなどの支援もして		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴・散歩はもちろん、買物・散髪等外出援助もしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員・個別等の外出支援を行っている。ご家族と出掛けたい希望があれば、ご家族の都合も踏まえつつ本人の希望が少しでも叶えられるようご家族とも密にコミュニケーションを行い、ご家族の負担とならぬ工夫もしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出す支援や電話の支援等行っている		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	来訪者への対応に配慮し、居心地良く過ごしていただけるよう、入居者に応じ、お茶出しを共に行ったり、お茶出しをあえて控えたりも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内での勉強会だけでなく、スタッフ間にて日常的に利用者がいかに生き活きと過ごせるか話し合い、身体拘束ゼロの方針で取り組んでいる		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関・窓を防犯目的で施錠するが、日中は玄関開放時チャイムが鳴ることでスタッフが対応できるよう工夫し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者をさりげなく見守りやすい場所におり、一人ひとりの位置と様子の把握に努めている。記録等も、入居者の姿が確認できる場所で行っている		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態・状況に応じ、個人の裁縫道具を居室管理としたり、状況変化があれば、夜間のみ預かりを行ったりしている(スタッフが針仕事したいので貸していただく等の声掛けにて)		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム勉強会を開き、また日常の休憩時間での雑談の中にも入居者一人ひとりの予測される事故等話し合い、防止にむけた方法など話し合っている。職員の疑問があれば、それを話し合い、その場にはいない職員に		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	独自の緊急時マニュアルの設置・勉強会・消防署からの救急救命講習全員参加を定期的に行っており対応できるようにしていると共に、夜間帯も夜勤者の他、救急時に備え宿直者が一名常駐している		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方を交え消防署の防災訓練を受ける等している		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	分かりやすく例を出し、常に行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・体重変化等記録し、また何かあれば職員同士の連絡・管理者への報告・記録を徹底し職員全体が把握している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりの勉強会を行い、入居者の使用薬(効能・副作用・用法・用量)について勉強会を行い、その方に応じた服薬方法にて服薬支援を行うと共に、症状の変化確に努めDrへの相談が適切にできるよう努めている		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員はホーム内での勉強会にて便秘の予防の必要性や対応を理解し、運動・食事等にて予防に努めている		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床後・毎食後の歯磨き声掛け・不十分な方へは介助を実施している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏食等の把握にも努め、食材の工夫を行い、個人の摂取量・バランス等確保に努めている		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム独自のマニュアルを作成し、勉強会を最低年一回行っており、予防・対応に取り組んでいる		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日夜間帯にてハイター漂白を行い、定期的流し台・冷蔵庫消毒の実施をおこなっている。又、食材は購入順・賞味期間順に並べたりの工夫も行っている		
	1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改造型を生かし“家庭らしい”雰囲気作りに努めている。季節の花を種から入居者と共に育てるなどし、明るい雰囲気作りにも配慮している。玄関までのスロープ・手摺の設置等行い気軽に安心して出入りしやすくなるよう工夫している		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光の取り入れや、カーテンの工夫により、時間・季節を感じ過ごせるよう配慮している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改造型にて狭く限られた空間のため、椅子の向き の工夫などで思い思いに過ごせるようしている		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族に使い慣れた物を持ち込んで頂けるよう依頼し、入居後も本人の好みの把握に努め共に揃えていきつつ居心地良く過ごしていただけるよう努力している		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間を決め換気を行い、外気温・室温に配慮を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置等にて身体機能の維持・向上を目指し自立した生活を目指して生活が送れるよう工夫している		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者をよく観察し、人が居る時・独りの時のわかる力を把握し、混乱や失敗を極力防げるよう本人にとって良い環境作りに勤めている		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に出入りできるようし、移動できる椅子を置いたり好みの道具にて掃除・畑仕事など出来るよう物品を揃えるなどして活動につなげている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

設立者が、もともと地域で暮らしていた住居を改造しグループホームとして展開していることで、“家庭”といった雰囲気をもった地域に馴染み、連携・交流が図れている(老人会への参入により、地域のお年寄りと共に旅行に行ったりし、認知症への理解が広まってきている)。入居者の方々が、“家”で家族的な空間の中、生き活きとした表情が多くなっていくのを職員は糧とし、より良い介護(共に笑顔で暮らしていく事)を目指している。またクリスマス会等にはご家族は勿論、提携医や町内の方も参加して頂けており、共にレクリエーションで楽しんで頂いている